



平成29年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年8月10日

上場会社名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2538 URL http://www.j-fla.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 檜垣 周作
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務計画部長 (氏名) 杉 義継 (TEL) 06-7688-5900
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年9月期第3四半期の連結業績(平成28年10月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年9月期第3四半期	19,477	5.9	309	△38.1	76	△61.9	△18	—
28年9月期第3四半期	18,400	△0.9	499	9.3	200	4.6	△50	—

(注) 包括利益 29年9月期第3四半期 10百万円(—%) 28年9月期第3四半期 △185百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年9月期第3四半期	△0.14	—
28年9月期第3四半期	△0.43	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年9月期第3四半期	24,777	6,063	24.4
28年9月期	21,713	5,412	24.9

(参考) 自己資本 29年9月期第3四半期 6,052百万円 28年9月期 5,412百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年9月期	—	—	—	0.00	0.00
29年9月期	—	—	—	—	—
29年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成29年9月期の期末配当予想額については、未定であります。

3. 平成29年9月期の連結業績予想(平成28年10月1日～平成29年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,800	12.4	400	△38.7	80	△66.6	10	△91.1	0.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年9月期3Q	136,925,670株	28年9月期	122,291,520株
29年9月期3Q	47,130株	28年9月期	47,130株
29年9月期3Q	128,784,193株	28年9月期3Q	116,529,722株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・配当については、業績に応じた適正な利益還元を行うことを基本方針とし、企業体質の一層の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案して決定しております。現時点においては事業環境に不透明な要因が多いことから配当予想額を未定としておりますが、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績の改善を背景に穏やかな回復基調が続いたものの、個人消費の低迷等により国内景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

食品業界におきましては、依然として企業間競争が激しく、景気の先行き不安による消費者の節約志向も根強いことから厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、当社グループは、平成28年10月1日から食品類・酒類事業の中心である盛田㈱の営業組織を2支社・4事業部制にすることで、各事業部の専門性を高め営業力強化に努めました。グループ全体の取り組みとしては、新商品の開発・導入、既存顧客の深耕、新規顧客の開拓、輸出の拡大等を掲げるとともに、更なるコストの削減を推進し利益の向上を図りました。

また、平成29年3月1日付で業務用総合食品商社業を主業務とする東洋商事㈱及び医療・介護用食品卸売事業を営む小林産業㈱を、平成29年4月1日付で酒類製造販売事業を営む千代菊㈱及び常楽酒造㈱を連結子会社化し、事業規模の拡大を図りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は19,477百万円(前年同期比5.9%増)、営業利益は309百万円(前年同期比38.1%減)、経常利益は76百万円(前年同期比61.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は18百万円(前年同期は50百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

なお、平成29年3月1日付にて、東洋商事㈱及び小林産業㈱を連結子会社化し、当第3四半期連結累計期間から量的重要性が増したことにより、「国内食品類・酒類卸売事業」を新たに報告セグメントに追加しております。

(食品類・酒類事業)

醤油類につきましては、家庭用のPB商品や業務用が堅調に推移したものの、家庭用の主力商品「マルキン こいくちしょうゆ 1L」「マルキン うすくちしょうゆ 1L」が苦戦したこと等により前期の売上を下回りました。

つゆ・たれ類につきましては、家庭用の「イチミツボシ ごまドレッシングゆず果汁入り 500ml」が好調だった他、新商品の「盛田 国産にんにく焼肉のたれ 240g」「盛田 国産紅ずわい蟹だし うま鍋つゆ 750g」「マルキン 合わせつゆ 500ml」が順調に推移しましたが、業務用が苦戦したこと等により、前期の売上を下回りました。

みりん風調味料及び料理酒につきましては、リニューアルした高付加価値商品「盛田 国産米100% 純米料理酒 500ml/1L」が売上を伸ばしたものの、業務用が苦戦したこと等により、前期並みの売上となりました。

漬物につきましては、なら漬は主力商品の「忠勇 あっさり味なら漬(胡瓜) 120g」が好調を維持し、簡便性を訴求した「忠勇 伝統製法切れてるなら漬(瓜) 70g」も順調に推移したこと等により前期の売上を上回りましたが、その他の漬物が苦戦したこと等により全体としては前期並みの売上となりました。

飲料につきましては、主力商品の「ハイピース 加賀棒茶ほうじたて 330ml」や新商品の「ハイピース オーガニック ジャスミン&ルイボスティー 500ml」「ハイピース 有機むぎ茶 500ml」「ハイピース さくら緑茶 京都産宇治抹茶入り 350ml」が順調に売上を伸ばすとともに、PB商品も順調に推移したこと等により前期の売上を上回りました。

日本酒及び焼酎につきましては、平成29年4月より連結子会社になった千代菊㈱及び常楽酒造㈱の寄与があったものの、主力商品の「尾張常滑郷の鬼ころし 2L」「尾張男山 2L」が苦戦したこと等により前期の売上を下回りました。

本みりんにつきましては、主力商品の「盛田 蔵出し本みりん 1L/1.8L」が好調だった他、業務用の新規開拓が順調に進んだこと等により、前期の売上を大きく上回りました。

この結果、当事業の売上高は9,751百万円(前年同期比0.8%減)、セグメント利益(営業利益)は371百万円(前年同期比18.5%増)となりました。

(輸入食品類・酒類販売事業)

業務用食材につきましては、ブルガリア産及びハンガリー産のフォアグラが堅調に推移し、フランス産キャビアや冷凍パンが新規顧客開拓等により売上を伸ばした他、フランスのジュース「アラン・ミリア」も順調に推移しました。しかしながら、フランスで発生した鳥インフルエンザの影響が長期化している中、主力商品のフランス産フォアグラ・肉類の調達に滞り、全体としては前期の売上を下回りました。

製菓用食材につきましては、主力商品「Kiri クリームチーズ」を使用した新商品が既存取引先から発売された他、新規顧客開拓も堅調に推移したものの、全体としては前期の売上を下回りました。

小売用商品につきましては、スペイン産の高級ポテトチップス「トーレス」が国内産ポテトチップス不足の影響もあり売上を伸ばしました。またフランスを代表するビスケット「サンミッシェル」や、新商品のジャム「コント・ド・プロヴァンス」が順調に推移したものの、主力商品であった「ボンヌママンジャム」の取り扱いがなくなったこと等により、前期の売上を下回りました。

ワイン類につきましては、ホテル・レストランへの新規拡販、高級クラブ他のナイトマーケットや地方量販店の開拓等に取り組み、スペインワインやチリワインは売上を伸ばしたものの主力商品のシャンパーニュ「ボランジェ」 「アヤラ」が苦戦したこと等により、前期の売上を下回りました。

この結果、当事業の売上高は6,725百万円(前年同期比19.0%減)、セグメント利益(営業利益)は172百万円(前年同期比62.5%減)となりました。

(国内食品類・酒類卸売事業)

業務用食材につきましては、既存顧客の売上が苦戦したものの、海老カツ、釜揚げシラス、芋焼酎等のPB商品が売上を伸ばし、また新規顧客開拓が順調に進みました。

デリカにつきましては、新規顧客への新商品販売や既存顧客の新規出店等により、堅調に推移しました。

外食につきましては、新規顧客との取引が始まったことが売上に大きく貢献しました。またスイーツ業態は、既存顧客の新規出店等により順調に推移しました。

通販につきましては、業務用食品のインターネット通販で既存顧客との取引が減少し苦戦しました。

医療・介護食品につきましては、既存顧客への売上は堅調だったものの、新規顧客の開拓が進まなかったこと等により苦戦しました。

この結果、当事業の売上高は2,722百万円、セグメント利益(営業利益)は7百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、現金及び預金が888百万円、受取手形及び売掛金が499百万円並びに仕掛品が457百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,895百万円増加し12,527百万円となりました。固定資産は、有形固定資産が792百万円並びにのれんが317百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,169百万円増加し12,250百万円となりました。その結果、総資産は前連結会計年度末に比べ3,064百万円増加し24,777百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、支払手形及び買掛金が1,056百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,026百万円増加し15,606百万円となりました。固定負債は、社債が1,195百万円並びに退職給付に係る負債が101百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,386百万円増加し3,107百万円となりました。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ2,413百万円増加し18,714百万円となりました。

当第3四半期連結会計年度末の純資産合計は、当社を完全親会社、東洋商事㈱を完全子会社として行った株式交換に伴い、資本剰余金が629百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ651百万円増加し6,063百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年5月12日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日別途開示しております「平成29年9月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,767	2,656
受取手形及び売掛金	4,372	4,871
商品及び製品	2,369	2,443
仕掛品	1,193	1,651
原材料及び貯蔵品	429	487
その他	505	422
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	10,632	12,527
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,376	6,793
その他(純額)	2,093	2,469
有形固定資産合計	8,470	9,262
無形固定資産		
のれん	1,375	1,692
その他	106	92
無形固定資産合計	1,482	1,785
投資その他の資産		
その他	1,784	1,838
貸倒引当金	△656	△636
投資その他の資産合計	1,128	1,202
固定資産合計	11,080	12,250
繰延資産	0	0
資産合計	21,713	24,777

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,650	2,707
短期借入金	11,027	10,785
1年内償還予定の社債	9	9
1年内返済予定の長期借入金	334	293
未払法人税等	76	31
賞与引当金	76	67
その他	1,404	1,711
流動負債合計	14,580	15,606
固定負債		
社債	11	1,206
長期借入金	816	843
退職給付に係る負債	90	192
その他	803	865
固定負債合計	1,720	3,107
負債合計	16,301	18,714
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,757	3,757
資本剰余金	8,496	9,125
利益剰余金	△6,981	△6,999
自己株式	△5	△5
株主資本合計	5,267	5,878
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	24	24
繰延ヘッジ損益	△41	—
為替換算調整勘定	3	△3
退職給付に係る調整累計額	158	152
その他の包括利益累計額合計	145	174
新株予約権	—	11
純資産合計	5,412	6,063
負債純資産合計	21,713	24,777

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
売上高	18,400	19,477
売上原価	13,207	14,358
売上総利益	5,193	5,118
販売費及び一般管理費	4,693	4,809
営業利益	499	309
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4	3
持分法による投資利益	—	6
受取保険金	2	18
その他	40	55
営業外収益合計	47	84
営業外費用		
支払利息	267	247
持分法による投資損失	3	—
その他	75	69
営業外費用合計	347	317
経常利益	200	76
特別利益		
固定資産売却益	—	6
災害見舞金	—	13
その他	—	0
特別利益合計	—	20
特別損失		
特別調査費用	80	—
過年度決算訂正関連費用	68	—
災害による損失	—	24
その他	13	4
特別損失合計	162	28
税金等調整前四半期純利益	38	67
法人税、住民税及び事業税	88	64
法人税等調整額	0	21
法人税等合計	88	86
四半期純損失(△)	△50	△18
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△50	△18

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
四半期純損失(△)	△50	△18
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	0
繰延ヘッジ損益	△134	41
為替換算調整勘定	1	△6
退職給付に係る調整額	△10	△5
その他の包括利益合計	△134	28
四半期包括利益	△185	10
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△185	10
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年3月1日に当社を完全親会社、東洋商事㈱を完全子会社とする簡易株式交換を行いました。当社は本株式交換に際して、東洋商事㈱の普通株式1株に対して、当社の普通株式を14,634.15株を割当交付いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本準備金が629百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が9,125百万円となっております。